

### 子育て教育

#### Q 町内保育環境の整備を



沖田ゆかり 議員

〈町長・民生部長〉

保育だけではなく総合的な支援に努める。

〔Q1〕 老朽化の進む保育所ひかり学園や初神保育園の建物の改築、整備等に関する町の支援は。

〔A1〕 保育所ひかり学園について、国の平成28年度施設整備費補助金の採択に向け、法人と協議の上作成した事業計画書を県に提出した。初神保育園についても今後、法人と協議を進める。

〔Q2〕 延長保育事業の充実について問う。

〔A2〕 早朝保育、延長保育とも保護者のニーズに応じて実施している。



〔Q3〕 子育て中の保育士が、早朝保育に出勤するため、自分の子どもを保育所に預けられず退職されている。保育士不足が叫ばれる中、保育士の子どもを優先的に預けることができないか。

〔A3〕 勤務先の保育所に預けることができる広域保育という対応を行っている。

〔Q4〕 病児・病後児保育の充実について問う。

〔A4〕 今年度から広島市、呉市、安芸郡4町などによる広域連携により市町域を超えて相互利用できることになった。

#### Q 魅力ある教育の町の実現を



諏訪本 光 議員

〈町長・教育長〉

子ども会の全町的な活動はなくなった。公園内での迷惑行為は禁止している。

〔Q1〕 子どもたちの豊かな心や健やかな体を育成する上で、子ども会活動を充実する必要はないか。

〔A1〕 全町的な活動は停滞しているが、自治体活動として活発な所もある。

〔Q2〕 子どもたちの遊び場は確保されているのか。

〔A2〕 公園内ではボール遊びなど、他の利用者に迷惑をかける行為は禁止している。

〔Q3〕 安全や危険に関して、判断ができる子どもたちを育成すべきか。

〔A3〕 一定時間、小学校の校庭を開放している。

〔Q4〕 前回、町役場職員の前、町活動指導員について、町長は「これまで検討したことがないので少し研究したい、費用対効果の面でも良い、少し検討期間をいただきたい」という回答であったが、その後の状況は。

〔A4〕 職員の前活動指導員は検討が進んでいない。教育上の問題や時間外の問題もあり、慎重に検討したい。

〔Q5〕 上手に行っている町もある。前向きに検討してもらいたい。

〔A5〕 気持ちにはわかるが、職場環境も厳しい。全県下でやっているなら考える。職員は本来の職務に専念すべきであって、一応預かりという事で検討はするが、積極的ではない。

### 道路交通

#### Q 小・中学校の英語教育の状況は



竹爪 憲吾 議員

〈町長・教育部長〉

小・中学校の教諭が連携して授業向上に努めている。

〔Q1〕 グローバル化が進む中、将来を担う子どもたちの英語教育はとても重要である。本町では、英語教育にどのような取り組みをしているのか。

〔A1〕 小・中学校の教諭が連携し、「熊野町英語大好きっ子育成プロジェクト」を立ち上げ、研究に取り組んでいる。

〔Q2〕 英語に親しむための具体的な取り組みは。

〔A2〕 小学校では、留学生を招き、筆について英語や身ぶり、手ぶりを交えて伝えるような取り組みを行っている。

〔A3〕 中学校では、修学旅行中に、大使館を訪問

し、英語で町を紹介する取り組みを行った。このように、子どもたちに英語に興味を持ってもらい、英語を学ぶ意欲を高めるような工夫を行っている。

〔Q3〕 本町の中学校の英検受験率、英検保持者、英語力はどのような状況であるか。

〔A3〕 英検受験率は、平成27年12月で、34.6%。英検保持者は21.3%となっている。

〔A4〕 英語力に関しては、広島県基礎・基本定着状況調査で、県内トップレベルの成績を収めている。



▲ 小学校の英語授業の様子

#### Q 熊野・海田バイパス構想は



立花 慶三 議員

〈町長・建設部長〉

実現は非常に困難と認識している。

〔Q1〕 この構想については以前、「調査費がついたのでは」との一般質問に対し、「現段階では困難である」と回答されている。

〔A1〕 その後10年が経過し町内の交通渋滞はさらに悪化する中で、トンネル工事技術は大きく進歩していることから、再考の余地はないものか。

〔A2〕 熊野・海田バイパス構想は国道や軌道系アクセスのない本町における交通ネットワークの強化を目的として、国や県に積極的に働きかけていたが、地形上の制約や事業費の面からその実現は非常に困難と認識している。

〔Q2〕 困難の具体的な理由は何か。

〔A2〕 トンネルが急こう配となり、危険となること。安全なこう配とすると、海田側で30メートル以上の高低差が必要、ループ橋が必要となる。

〔A3〕 事業費についても、工事費だけで、最低でも200億円かかる。町としては、町の大動脈である矢野安浦線の整備に全力を傾け交通ネットワークの強化を図っていくことを考えている。

